

キャラクター名  
コウガ・フェンガリス

プレイヤー名

<b>種族</b>	ライカンスロープ	<b>種族特徴</b>	暗視/獣人の力/獣化/弱点(銀+3)		
<b>生まれ</b>	拳闘士	<b>性別</b>	男	<b>年齢</b>	18
<b>冒険者Lv</b>	6	<b>経歴</b>	秘密を黙ってられない/なかった		
<b>経験点</b>	2140		戦いのチャンスは逃さない 長、族長の血縁である		

<b>技</b>	10	<b>器用度</b>	17	<b>成長</b>	3	<b>他修正</b>		<b>能力値</b>	30 + 1	<b>ボーナス</b>	5
		<b>敏捷度</b>	7	3		20	3				
<b>体</b>	8	<b>筋力</b>	5	2		15	2				
		<b>生命力</b>	16	4		28	4				
<b>心</b>	4	<b>知力</b>	8			12	2				
		<b>精神力</b>	10			14	2				

<b>技能</b>	<b>Lv.</b>	<b>技能</b>	<b>Lv.</b>
グラップラー	6		
レンジャー	4		
エンハンサー	2		
アルケミスト	1		

<b>戦闘特技</b>	
追加攻撃	220 p
投げ攻撃	225 p
鎧貫き	1B39 p
両手利き	223 p
全力攻撃	225 p
防具習熟/非金属鎧	222 p
	p
	p
	p
	p
	p

<b>言語</b>	<b>会話</b>	<b>読文</b>
交易共通語	○	○
汎用蛮族語	○	○
魔動機文明語	○	○
ライカンスロープ語	○	○

<b>練技/呪歌/騎芸/賦術</b>	
ビートルスキン	
マッスルベアー	
クリティカルレイ	

<b>技能</b>	<b>基本レベル</b>	<b>基本命中力</b>	<b>基本回避力</b>	<b>基本追加ダメージ</b>
ファイター	0			
グラップラー	6	11	9	8
フェンサー	0			
シューター	0			

<b>鎧と盾</b>	<b>必要ランク</b>	<b>筋力</b>	<b>回避力</b>	<b>防護点</b>
鎧 アラミドコート		5	1	2
盾				
その他補正(防具習熟/回避行動 etc)				1
回避技能	グラップラー	合計値	10	4

<b>武器</b>	<b>用法</b>	<b>必要筋力</b>	<b>命中修正</b>	<b>命中力</b>	<b>C値</b>	<b>追加ダメージ</b>	<b>威力</b>	<b>3</b>	<b>4</b>	<b>5</b>	<b>6</b>	<b>7</b>	<b>8</b>	<b>9</b>	<b>10</b>	<b>11</b>	<b>12</b>
パワーリスト Aランク装備につき、必筋+10で装備	1H	15		2d+ 11	9	8	10										
スタンパー グラップラー専用、キック強化 必筋+10で装備	1H#	5	-1	2d+ 10	10	8	20										
投げ グラップラー専用	2H	0		2d+ 11	12	8	0										
爪	1H拳	1		2d+ 11	10	8	6										
牙	2H#	1		2d+ 11	9	8	11										
				2d+													
				2d+													

<b>制限移動</b>	<b>通常移動</b>	<b>全力移動</b>	<b>回避</b>	<b>防護点</b>	<b>HP</b>
3 m	20 m	60 m	2d+ 10	4	46

<b>魔物知識/弱点</b>	<b>先制力</b>	<b>生命抵抗</b>	<b>精神抵抗</b>	<b>MP</b>
2d+ 0/X	2d+ 0	2d+ 10	2d+ 8	14

<b>魔法技能</b>	<b>Lv.</b>	<b>魔力</b>	<b>魔法技能</b>	<b>Lv.</b>	<b>魔力</b>

<b>装備品</b>	<b>説明</b>
頭	
耳	
顔	
首 ポーションインジェクター	ヒリポー一本仕込み済み
背中	
右手 巧みの指輪	
腰 ブラックベルト	
足	
その他ツアーリ家の家紋	ツアーリ家であることを示す証。姫様親衛隊の証とも言える(?)

<b>装備品</b>	<b>説明</b>
左手 アルケミーキット	本来の定価の1.5倍

**その他メモ**

かつてソレイユだった少年は、集落の長の息子だった事もあってか、ひたすらに戦闘技術を叩き込まれた。戦闘本能のままに憎き蛮族との戦いに明け暮れた。戦いの中にこそ充足感と生き甲斐を感じ、死線を潜り抜ける事でこそ生を感じていた。だが、いくら倒せども、内に募る憎悪は一向に留まるところを知らない。それでも戦いを止める事はなかった。否、もう止まる事が出来なくなっていたのだ。戦いの果てに何を見出せたのか、それすらも覚えてはいない。もしかしたら、何も見出せてはいなかったのかもしれない。途中、人族の醜悪な姿を何度も見た。その内、本当に打倒すべきは人族なのか、憎悪の対象すら分からなくなった。それだけ、純粋だった少年の心は、酷く摩耗した。

身も心もボロボロになった少年が辿り着いたのは、己が蛮族になるという答えであった。戦いの中で敵対していたライカンスロープに実力を見込まれた少年は、あろう事か命を奪われる事なくそのまま連れて行かれ、儀式によって己もライカンスロープへと変じたのだ。抗う意思こそなかったが、その時のショックなのか、過去の記憶と習得していた力をほとんどなくし、一部口調と本能に名残を残しているのみ。それでも蛮族としての自分を受け入れた少年は、倒すべきだと思っていた蛮族の側の自分を受け入れ、そのまま青年へと成長を果たした。かつての名前の代わりに、月を冠する名を新たに授けられた。

自動失敗  
チェック  
□□□□⑤  
□□□□⑩  
□□□□⑱  
□□□□㉔  
□□□□㉙  
□□□□㉚  
□□□□㉛

